『7つの習慣』など子供から大人までを対象にした教育事業を展開する株式会社ＦＣＥエデュケーション。このＦＣＥグループに、自立学習教材「Ｓｅｌｆｅｅ（セルフィー）」などを提供する株式会社日本コスモトピアがグループインした。この経緯と生まれるシナジー、そして未来の教育について、ＦＣＥエデュケーション、日本コスモトピア代表取締役社長の尾上幸裕氏と日本コスモトピア会長の下向峰子氏に語っていただいた。

先生と生徒をタッグで支え、主体性教育と自立学習を推進
FCEグループに日本コスモトピアがグループイン


下向峰子会長

いただけて、運命だなと思うぐらいいろいろ助けていただいき、グループインする運びになりました。

――今後、コスモトピアに期待すること、あるいは事業をどのように展開していきたいんでしょうか？

尾上　コスモトピアに期待をするというよりも、ＦＣＥグループの教育部門という形で大きくとらえたいと思っています。私たちは今まで主体性教育に重きを置いてやってました。コスモトピアは自立学習に力を入れていて、その点でも相性がとてもいいと感じています。例えば、自立学習というものは、主体的なスタンスがきちんと身に付いてないと進まないわけですね。一方で、主体的なスタンスをちゃんと身につけたときに、何に向かうのか、何を使うのかも重要になってくる。そこで、私たちが持っているコンテンツで、主体的教育をやりながら、そのツールとして「Ｓｅｌｆｅｅ」や「みんなの学習クラブ」などを使うことで、学習効果そのものが飛躍的に上がるんじゃないかと期待しています。今は、それぞれがまだ単体、独立して販売している状態ですが、それをこの2、3年の間にきちんとシステム連携できる一つの商品に作り変えていくことで、より広くユーザーを獲得できればと思っています。

主体性教育と自立学習のシナジー

――日本コスモトピアがＦＣＥグループにグループインするに至った経緯をお聞かせください。

下向　創業40年を越え、日本コスモトピアは、本当に大切に育ててきた会社だったので、それをより発展させていただくための承継のことはずっと考えていたんですね。いろいろ模索してきた中で、ＦＣＥグループと縁があり、我々の理念を本当にわかってもらえて、運命だなと思ったというのが一番大きいですね。

――今後、コスモトピアに期待すること、あるいは事業をどのように展開していきたいんでしょうか？

尾上　コスモトピアに期待をするというよりも、ＦＣＥグループの教育部門という形で大きくとらえたいと思っています。私たちは今まで主体性教育に重きを置いてやってました。コスモトピアは自立学習に力を入れていて、その点でも相性がとてもいいと感じています。例えば、自立学習というものは、主体的なスタンスがきちんと身に付いてないと進まないわけですね。一方で、主体的なスタンスをちゃんと身につけたときに、何に向かうのか、何を使うのかも重要になってくる。そこで、私たちが持っているコンテンツで、主体的教育をやりながら、そのツールとして「Ｓｅｌｆｅｅ」や「みんなの学習クラブ」などを使うことで、学習効果そのものが飛躍的に上がるんじゃないかと期待しています。今は、それぞれがまだ単体、独立して販売している状態ですが、それをこの2、3年の間にきちんとシステム連携できる一つの商品に作り変えていくことで、より広くユーザーを獲得できればと思っています。

先生の負担を軽減するソリューション

――現在、学校の先生がたの働き過ぎや教育改革のスピードの遅さなど教育業界には課題が山積しています。日本コスモトピアがグループインしたことで、ＦＣＥグループ全体として解決できることはどんなことでしょう？

尾上　私たちが提供していくツールやその教育カリキュラム全般に言えることかもしれませんが、例えば、主体性教育によって生徒の主体性そのものが底上げされると、当然ながら先生が生徒一人ひとりにかける労力は格段に下がるわけですよね。だから先生だけが変わるんじゃなく、生徒も変わることで学校現場の生産性は向上していくと思います。私たちが持っているツールをグループ全体で見ていくと、例えばＦＣＥプロセス＆テクノロジーの「ロボパット」にしても、学校の業務負担を軽減できるものです。また、我々の「フォーサイトアプリ」は、生徒の入力状況によって、先生たちがダッシュボードで生徒を把握できる形になる。例えば、不登校の生徒は、これまで学校に来てくれてなかったわけですから、先生がたは生徒たちの様子を知る術もなく、コミュニケーションが断絶された状態でしたが、生徒たちもアプリ上では会話ができるということで、不登校の生徒たちのケアにつながるツールとしても、注目をいただいています。そういうコミュニケーションの抜本的な改善、改革に私たちは寄与できるんじゃないかと思います。

下向　尾上社長が仰るように、子供たちが主体的に動けることは我々の願いでもあります。学習を通して、そういうことを身につけてもらいたい、受験戦争から脱却したい、と考えている先生が多いと思います。やっぱり人を育てる、人は育っていくというところにすごく想いを持ってる先生が多いですね。ユーザー同士の研修会でもそういう話で盛り上がりますから。


尾上幸裕社長

同じ方向を向いている

下向　この対談の機会をいただいて、尾上社長に質問したいと思っていたのですが、早くからいわゆる非認知能力や主体性に特化したような製品やサービスを提供されています。当初の展開はなかなか難しかったかと思うのですが、どうして業界に先駆けてこの事業を手がけようと思われたのでしょうか？

尾上　ＦＣＥエデュケーションを立ち上げた２００４年当時は、正直申し上げて、非認知能力だとかそのような言葉を意識して展開してはいませんでした。その中で、たまたま出会ったのが小学校の先生たちが『７つの習慣』を使った研修でした。なぜ、小学校の先生たちがそのような研修をしているのか興味を持ち、授業を見せてもらったら、生徒の変わりっぷりがすごくて。

そこで、今まで私たちは大人をいかに教育するのかということばかり考えてきたけれど、本当に教育を考えるんだったら子供の頃からでないといけないし、これと同じ教育をして変えることができたら、日本はもっともっと良くなるんじゃないのかと思ったんですね。


日本コスモトピアは、ＦＣＥグループの一員としてさらなる成長を目指す

下向　相当なチャレンジだったと思います。まさしく私たちもよく言っていたんですけど、先生に変わってもらおうとせずとも、子供たちが変われば、それを見た先生が「おや？」って思って、先生も変化していく。また子供が変わり、先生との関係性が変わると、親御さんも変わっていく。この好循環をどうやって起こすかということをいつも考えていました。視点としてすごく近いものがあるな、一緒なんだなと今改めて思いました。

尾上　主体性を身につける学習もそうですけど、大人になってからというか、仕事をするようになると、主体的な学びという土台がないと成果を出し続けるのは絶対無理ですよね。主体的な学びのトレーニングの場が、小中高というステージなので。考え方という部分を学ぶきっかけとして、『７つの習慣』などが土台にあり、その行動習慣を変える土台として「フォーサイト」がある。そして実際に学び続ける土台形成として、「Ｓｅｌｆｅｅ」とか「みんなの学習クラブ」がある。そういうセットにしたいですね。

FCEエデュケーションのウェブサイト

日本コスモトピアのウェブサイト

↘試から６人増の10人にする。26年度入試からは県出身者を対象にしている「学校推薦型選抜２（佐賀県枠）」を４人増の22人とする。増員に伴い、25年度入試は後期日程の募集人員を６人減の４人とし、26年度入試からは廃止する。

◆佐賀大は３月29日、医学部医学科の推薦入試の募集人員を25年度以降に増やすと発表した。増員に伴い、一般入試後期日程を26年度入試から廃止する。増員するのは、佐賀県内の医療機関に従事する学生を募る「佐賀県推薦入学特別選抜」で、25年度入↗

出典元 「月刊 私塾界」5月号